



子どもたちに居場所を～児童館まなびスペース～



夏休み期間に中学生が自主学習できる場所として、町児童館において7月22日(水)から8月7日(金)まで「児童館夏休みまなびスペース」を開催しました。1時間半ほどの学習タイムと、自由に運動したり製作できる交流タイムの2部制で行い、中学生だけでなく小学生の参加もあり、勉強を教え合ったり、悩みを相談したり、楽しく遊ぶことで、交流が深まり、子どもたちが安心して過ごせる場所となりました。

開催期間中には、町福祉センターで毎月開催されている「つばめ食堂」を主催する「ボランティアグループ結」の協力により、おにぎりやみそ汁、卵焼き、ウインナーなどが無料で提供され、「まなびランチ」として子どもたちのお腹と心を満たしました。

子どもを育てるということ



7月21日(火)から28日(火)にかけて、町内の公立認定子ども園において町内中学生を対象とした保育体験を実施しました。はじめは緊張した様子であった園児と生徒も、交流を深めていく中で打ち解け、一緒に本を読んだり、絵を描いたりして楽しい時間を過ごしていました。室内遊びやプール遊び、給食の時間を一緒に過ごすことで、生徒たちは乳幼児との関わり方や命の大切さを学びました。

この事業は、参加した生徒たちが将来の人生設計をするうえで、結婚や子育てをイメージする機会となることを目的としています。町では、少子化対策として、結婚や子育てを見据えたライフデザインの実現を支援していくため、今後もさまざまな施策を展開していきます。

子ども目線で考えるまちづくり



8月4日(火)に町役場4階大会議室において、子どもの声を聞き、まちづくりに反映することを目的に、養老町子ども座談会が開催されました。町内在住・在学の中高生が参加し、「子どもの権利について」「町内子ども園・保育園のこれからについて」の2つのテーマを、4つのグループに分かれてディスカッションを行い、その内容を発表しました。

発表を聞いた川地憲元町長は「こども園や保育園で過ごす幼少期の1年はとても大切な時間です。その大切な時間を価値のあるものとし、大人になったときに“やっぱり養老がいいな”と思ってもらえるよう、皆さまの意見を取り入れながらまちづくりを進めていきたいと思います」と話しました。

保育園留学で感じる“養老”



保育園留学の制度を利用し、8月3日(月)から1週間、大阪府在住の3歳の女の子がめぐみ保育園での園生活を体験しました。留学初日には歓迎会が行われ、めぐみ保育園の園児から歌が披露され、利用者親子を温かく迎えました。利用者の保護者は「普段とは違う自然あふれる養老町の空気を感じ、いい思い出にしてほしいです」と留学へ込めた思いを話しました。

保育園留学とは1週間から2週間にわたり地域の保育園に通うことで、都市部にはない自然の中でのびのび遊び、子どもたちの豊かな感性を育むことを目的としている制度です。今回の留学では、川での散歩や野菜の収穫、スイカ割りなどにより、養老らしい自然に囲まれた生活を体験しました。